

H24年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 親子のための日本語教育プログラム

JTMとくしま日本語ネットワーク



地域の実情と課題

子ども

- ・継続して日本語を学べる場が少ない。
- ・母国ではいろいろなことができたのに・・・。
- ・子どもならではの思いがあるはず。



- ・散在地域では、支援を必要とする子どもたちが集まって共に日本語を学べる場所が極めて少ない。



- ・継続して学べる場所が必要。
- ・同じ境遇の子どもたちと出会える場所が必要
- ・子どもたちが自己アピールできる場所が必要。

保護者

「学校の先生と、どうやって話せばいいの？」
「お便りが読めるようになりたい。」
「地域の人の付き合い方がよくわからない。」



- ・県内の支援の場は「初級日本語教室」が大半。
- ・保護者や生活習慣に特化した支援の場は殆どない。



- ・子ども達のためにも、保護者の生活の充実が必要。
- ・学校教員やまわりの人々と円滑にコミュニケーションをとれる学習が必要。

事業の内容



- 日本語教室の設置・運営
にほんご寺子屋(親教室・子ども教室)



- 日本語教育を行う人材の養成・研修
日本語教育を行う人材の育成セミナー



- 日本語教育のための学習教材の作成
テキスト
『子どもと暮らすためのこんにちはとくしま』
作成

教材を作る

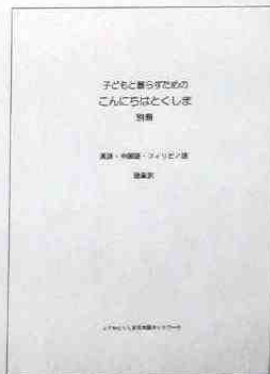


JTMとくしまネットワーク
2002年 編集・発行



テキストの特徴

- 徳島で子育てをしている外国人のための教材
- 本課は12課からなり、場面・機能シラバスで構成
- 本課の構成 会話と練習(表現の練習問題)
読む・書く(学校のお便り)
生活を知ろう(日本事情)
- 季節や学校の行事に合わせて、どこからでも学習可能
- 日本の学校のしくみ、年間行事、施設・教室・道具、時間割表、1日の流れをイラストとやさしい言葉で説明
- 巻末に、徳島の方言が聞いてわかるように「阿波弁講座」と題し、イラストや問題を掲載
- 索引、語彙訳(英語・中国語・フィリピン語)がある
- ★ カリキュラム案の事例をもとに、子どもを育てるうえで想定される場面・表現・語彙が取り入れられている。



ストーリーと学校事情

ストーリー

主人公の田中ソニアさんは、小学生の男の子と中学生の女の子を持つ母親です。フィリピンに海外赴任していた日本人男性の田中一夫さんと1年前に再婚し、1か月前に家族でフィリピンから日本にやってきました。
この本では、ソニアさんが、近所の人や学校の先生、ほかの保護者の人たちに助けられながら、日本での子育てや地域での生活に慣れていく様子を追っています。

登場人物



★ 学校事情



